

会議の概要(議事録)

会議の名称	3 - 2 3	第14回墨田区立学校適正配置等審議会		
開催日時	平成18年2月27日(月)午後4時00分から午後5時15分まで			
開催場所	墨田区役所 第一委員会室			
出席者数	28人【委員】尾木和英 堀内一男 早川幸一 中沢進 田中邦友 槐勲 片倉洋 及川勝男 奥住益宏 大倉正敏 高島隆一 志波洋子 森八一 粕谷秀雄 伊藤政広 川島康義 阿部貴明 長谷川ミチル 登坂達雄 【事務局】教育長 次長 庶務課長 学務課長 指導室長 すみだ教育研究所長 生涯学習課長 区立学校適正配置担当主査 区立学校適正配置担当主事			
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる)	部分公開(部分傍聴できる)	傍聴者数	9人
	非公開(傍聴できない)			
議題	1 墨田区立学校適正配置等審議会(第13回)の記録について 2 最終答申(案)の検討、決定 3 答申 4 教育長あいさつ 5 委員あいさつ			
配付資料	1 第14回墨田区立学校適正配置等審議会【次第】 2 第13回墨田区立学校適正配置等審議会 議事録(案) 3 最終答申(案)の修正箇所 新旧対照表 4 「新たな墨田区立学校の適正配置等について(答申)」(案)			
所管課	教育委員会事務局 庶務課 区立学校適正配置担当 (内線5136)			

第 14 回墨田区立学校適正配置等審議会 議事録

1 墨田区立学校適正配置等審議会(第 13 回)の記録について

会議の概要の内容について確認した。会議の概要と資料についてホームページ及びPRコーナーにおいて公開する。

2 最終答申(案)の検討・決定について

- ・資料 最終答申(案)の修正箇所 新旧対照表
- ・資料 「新たな墨田区立学校の適正配置等について」答申(案) 庶務課長より資料説明。

【主な意見】

会長：前回、委員の皆様から建設的な意見も頂いたが、修正がその意見と一致しない場合もあったかと思う。過去の関連や全体の構成を考えた上で確定をさせて頂いたのでご理解を頂きたい。まず事務局の説明に対して質問のある方はいらっしゃいますか。よろしいでしょうか。では、全体を通して、答申ということで認めて頂くことでよろしいでしょうか。

委員：もし可能であれば、23ページの「おわりに」の最後の「明るいすみだの未来づくりに結びつくことを望むものである」に、「心より」とか「心から」という文言を入れて頂きたい。22ページの「その他の関連」の(1)(2)にも、「望みたい」、「望むものである」とあるので、ここの最後の4行ではもう少し皆さんの総意ということで、情緒的で大変恐縮だが、今日は原則として確認をということを十分承知しながら、そんなことを感じたのだが、いかがでしょうか。

会長：14回審議を重ねてきたので、全文を読んでいるうちにそれぞれの思いが甦ってくるのは大切なことで自然なこととは思いますが、いよいよ最後の答申のまとめであるので、できれば原則をはずして議論するのは、これだけに限らせて頂ければと思っている。委員の方々から少し考えを伺いたい。

委員：今日は最終の審議会であり、この答申を会長が教育長にお渡しをして、それで終わるわけなので、それを変更して時間的に間に合うのかどうかという問題がある。変更して正式に作り直して会長が教育長に渡すのか、今の発言を勘案しながら後で正式に作るのか。

会長：私も基本的には同じ気持ちがあり、委員の皆様方から挨拶を頂いた後、会長という立場で挨拶を申し上げる時に、この4行が我々の本当の思いなんだ、我々は心からこういうふうに思っていることを汲んで頂きたいと教育長に申し上げて結びにしたいと思っていた。先程の発言は、更に深めて、それを言葉にしたらどうかという発案である。思いは一緒だが、取り扱いについては、話があったように、やや問題をはらんでいる。もし、委員の皆様方から是非入れたいということになれば、委員の総意でこだけ文言を修正するという合意の基に本日は教育長にお渡しをして、事務局で委員名簿の訂正と同じ扱いで、完全なものにして公表の手順にする、こういう運びは可能でしょうか。

事務局：会長がおっしゃった方向で取り扱いたい。

委員：「心より」という文字を入れることが出来るのであれば、入れた方が思いが伝わるのではないかと。会長の挨拶の中で明確におっしゃるのも良いが、審議会の委員の総意の気持ちとして、文章として入れても良いのではないかと思う。

会長：答申案はこのままにして、我々がこうして議論している気持ちを事務局に十分に踏まえて頂いて、今後の実施計画、実施に生かしてほしいという形で収めるのか、文言として我々の気持ちを表すか、どちらかになるかと思う。意見をもう少し頂きたい。

委員：「心より」を入れて頂くと大変結構だと思う。

会長：皆様も同じ考えと考えるとよろしいでしょうか。それでは、全員の総意で「すみだの未来づくりに結

びつくことを心より望むものである。」という文言を補ったものにして、先程の委員名簿とあわせて完全なものにして次の手順に移って頂く。本日は我々が手にしているものの段階で、ただし、案が取れたものを教育長にお渡しをするという事でよろしいでしょうか。では、そのように運ばせて頂く。その他、特にここで発言をお持ちの方はいらっしゃいますか。よろしいでしょうか。それでは、答申をお渡しさせて頂く。

3 答申

会長より墨田区教育長へ「新たな墨田区立学校の適正配置等について」答申を提出した。

4 教育長あいさつ

教育長：長い間、1年有余の期間をかけて、14回にわたる熱心な審議を経てこの答申を頂きましたことを、心から感謝を申し上げたいと思います。本当にご苦労様でございました。ご熱心に、細部にわたってご教示頂きまして、誠に植えるべき良い方向をお示し頂いたと思っております。これをしっかり教育委員会として受け止めまして、これを今後、具体的な配置の計画に生かしていきたいと考えているところでございます。ご審議を頂く過程の中でも、教育改革の流れはいろいろと動きもございまして、小中一貫ですとか、中高一貫ですとか、様々な新しい動きもございしますが、その中でもこの適正配置に込められた、この審議会のご意見は十分通用し、また未来に向かってつながっていくものだと確信いたしております。私としても、これを生かしていくことに頑張らせて頂きたい、そのことを再度申し添えまして、皆様方のご苦労に感謝を申し上げて、私からのご挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

5 委員あいさつ

委員：適正配置になる以前の問題で、私なりに異議を申したい。学校自由選択制を提言しておきながら今度は適正配置ということで、当然集中する学校があり、児童・生徒数が少なくなった学校については、そういった波が押し寄せてくる。政府として、自分達の手を汚さずに、そういう形をお膳立てしておきながら、こういうふうになってきたことについて、いかななものなのかと思っていた。世の中の流れで、そういう形に従っていかなくてはいけないとは思いますが、政府の方も自分で心を出してやってもらえたらと思う。

会長：欠席の委員から手紙を寄せて頂いているので紹介させて頂く。「地域の代表ということで、学校と地域のタイアップには、只今実施されている学校を拠点とする防災運動にかかる町会・自治会を1つの連合町会としてほしいという思いを持っている。最後の会に出席できず申し訳なく存じます。委員の方々にくれぐれもよろしく。」

委員：審議会の第1回が平成16年8月だったと記憶している。振り返ってみると、もう1年半経過したが、1年半というのは非常に短かった。お互いに建設的な有意義な意見交換をし、審議をしてきた結果ではないかと思っている。教育長に答申をお渡しした際に、我々の答申を生かして下さるといった話があった。是非我々の意見を反映して、なおかつ速やかに実施をして頂けたら大変ありがたいと思っている。

委員：1年半もの間、若輩者の私を教えて頂き、大変有意義な時間を送らせて頂き感謝を申し上げます。これから行われる作業は線引きと組み合わせという作業だと思う。是非、大胆かつ繊細に、譲れないところは譲らずに、かつ柔軟に、100年後の区民に褒めて頂けるような適正配置を行政の皆さんでお願いしたい。私がどうしてもこだわりたいところは、学校の校庭の広さと、その質についてである。墨田区、特に本所地区の校庭は狭すぎると思うので、その点を十分考慮して頂きたい。現在は人工芝も質が良くなっているので十分研究して、もし出来たらやって頂きたい。出させて頂い

た全般的な会議で思ったことだが、施策をやってみて芳しくなかったと思うような事は改めるという姿勢が大事かと思う。山で道に迷った時には必ず元あった地点まで戻って行動するのが常道的な考えである。戻らずに登っていくと崖に出くわしたり、斜面に沿ってシダが生えていて登ろうとしても登りきれず、結局元に戻るような事が多々ある。ちょっと違ったなという部分があったら、潔く改めて頂くのが大事ではないか。最後に、皆さんに拙い言葉を述べたこともあったと思うが、一年半本当にありがとうございました。

委員：このような大切な審議会に出させて頂き、本当に心から感謝申し上げます。私も今の発言と全く同じような意見を持っている。PTAとしては、答申が出たということは、ここがスタートで、どういう実施計画案が出来るか、どういう方が加わって、どういうふうに行うのか、時間はどのくらいかかるのか等、実施計画案の方が重要で、この辺をちゃんとPTAが目を見させて見ていかなければならないと思っている。どういう形で計画案が行われるのか、示して頂きたいと思っている。

委員：身に余る大役を仰せつかり、このような会に出させて頂いた。P連の代表として、保護者の代表として出させて頂いたが、十分に連合体や保護者の意見を言えたかどうかという事は、自分自身そこまでやり切れたかという疑問は残るが、出来る限りの事はしてきたと思う。私達が審議してきたのは、場当たりの統廃合ではなく適正配置である。100年先の墨田区のためになるようなものを、これから作って頂くことを期待致している。私達保護者は、やはり子どものことを第一に考えたい。子ども達にとって良い適正配置になるかどうか。あとは、子ども達が卒業すれば、今度は地域の人間になるので、そういった目で適正配置を見ていきたいと思う。一年半お世話になりました。

委員：墨田区の教育行政に関わるこのような大きな会議に出席させて頂き、本当にありがとうございました。私は墨田区の33名の青少年委員を代表して出させて頂いたので、地域の力ということが一番大事にしてこの会議に出席したいと思っていた。私がそういう発言が出来たかどうかは反省をしているが、やはり子ども達が安全に、そして楽しく学校生活が送れるようにしていきたいと願っている。そのためには、地域の力、地域の教育力が、これから一番大事になってくると思う。総論では良くて各論になるといろいろな問題が起きて来ると思う。地域の意見を聞きながら、取り入れながら、実際の適正配置をやって頂きたいと強く期待している。

委員：委員の皆様、事務局の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。答申が墨田区の公教育の未来を切り開いていける礎になることが出来るようになれば、大変ありがたいと感じている。

委員：会長はじめ委員の皆様には、私の拙い発言の機会を与えて頂き、大変ありがとうございました。墨少連として地域に開放された学校施設の維持を基本に出させて頂いた。答申の中で、平成16年の新たな学校づくり調査検討報告書を考慮するとか、地域のつながりに配慮した学校改築等の文言が入り、私達の期待が組み入れられていると評価している。今後は、次年度に開かれる実施計画策定委員会にも大きな関心を持っていきたいと思っている。その中で、我々の会が必要な場合はいつでもその役を果たしていきたいと思っている。

委員：私は墨田区民の一人ということで参加をさせて頂いた。墨田区の今までの適正規模・適正配置という歴史の中では、昭和22年に新制中学が出来て以来の墨田区全体を見直した大改造だと思っている。この答申を基に実施計画を出されるまでの事務局のご苦労は、これから大変なものがあると推察するが、出た後に総論賛成各論反対ということのないように、議会の皆様方の支援がないと、この実施計画が発表された後も実施されていないだろうと思っている。大胆な、かつ繊細に実施計画を検討された上で早急な実施を望みたい。本当にありがとうございました。

委員：14回にわたり、大変お世話になりました。無礼な発言もあったかと思うが、この場を借りてお詫びを申し上げます。私も一区民として参画をさせて頂いた。私自身墨田に生まれ、墨田で育ち、墨田の中で教育を受けて、そして墨田の中で今でもお世話になっている。今住んでいる墨田区民のために、同時にこれから将来墨田に移り住んでくる区民のために、きちっとした教育の受け皿が一番重要だと思う。これからも必要に応じてお手伝いをさせて頂ければと思っている。適正配置の配置自体は物理的な問題であるが、そこには教育に対する見識や思想等がきちっとしていることが大前提だと思う。今回の審議を通じて、配置の物理的なことよりも、教育そのものについて墨田区として固まっているのか若干不安だったが、既に採択された基本構想に従って、新たに墨田の教育指針が検討されるということなので、今回の答申も踏まえて十分に検討して頂いて、将来の指針がしっかり出てくると良いと思っている。変化の激しい時代なので、せっかく今正しいと思われる答申を出しても、実施までに時間がかかり始めると、ピントがずれてしまう可能性がある。踏み切るのは難しいと思うが、今の判断を大切に、なるべく早く実施に向けて進んで頂ければ良いと思う。その際、もしかしたら、将来から振り返って間違いがあったということがあるかも知れない。それは、その時に修正をすれば良いのであり、過去を間違っていたという考え方は違うと思う。その時点ではそのベストの判断をされた。ただ、環境が変わる中で、考え方が変わり、様子が変わる中で、改めて見直すべき必要な事があれば、その時にきちっとした見識を持って見直せば良いと思うので、せっかく検討した内容が時代遅れにならない前に、早く実施計画を策定して頂けると大変ありがたいと思う。

委員：墨田の子ども達を預かる現場の学校の校長として、これから審議会の中で出された多くの皆さん方の意見を少しでも生かせるように学校の経営に努力をしまいたいと思っている。この会が終わるにあたって、こんなことも頭に入れて頂きたいという思いを少し話させて頂きたい。今、いろいろな面での教育改革が進む中で、学校もそれぞれ一生懸命、力をあげて努力をしている。これからも学校、また教職員への応援、励ましを是非一層して頂けるよう、区民の皆さん方をはじめ多くの方をお願いをしたい。また、教育委員会の事務局の皆さん方をお願いしたいことは、小学校の場合、多くの学校が設立をされる時に多くの経緯を持っている。この辺りも踏まえて頂く中で、実際に地域の方々に説明をされる場合には、きめ細やかな対応をして頂けるとありがたいと思う。いろいろな面で墨田の子ども達が、明日の時代を力強く生きていけるように、学校としても努力をまいりますので、よろしくお願い致します。ありがとうございました。

委員：大変重要な会に参加させて頂きまして、ありがとうございました。委員の皆様それぞれのおかれている立場や環境の中で、考える方向はいろいろ違うと思うが、墨田の学校はどうあるべきかという真剣な議論の中に身を置かせて頂いた。私自身、考える事は個人的にはあったが、学校の運営に携わる側として、どれだけのことが出来たのかとちょっと反省もしている。あとは、また学校に戻り、自校の状況や子ども達の実態を把握しながら、より良い学校運営を墨田にしっかり足を据えて進めていきたいと思っている。これから、子ども達にとってより良い環境条件が整備されていくと思うが、学校はそれらを前向きに捉えて、少しでも子ども達にとって充実した学校になるように進めていく事だと思う。これから先、これまでよりもっと大変な事務局の方達のいろいろな準備作業があると思うが、多くの方々のいろいろな思いを汲み取った上で、後になって、こんなことをしなければということにならないような素晴らしいものを作って頂けるようにと願っている。いろいろとありがとうございました。

委員：この間の14回の審議の中で、多くの委員の皆さんの話を伺って、たくさんのことを学ばせて頂い

た。知らない事がたくさんあり、具体的な問題提議、発言に本当に感謝している。改めて御礼を申し上げたいと思っている。先だって、共産党区議団のニュースで、中間答申が出た段階の談話という形で、中間答申について考え方を明らかにしたが、予想もつかない、いろいろな方からメール等で意見を頂いた。改めて適正配置について、現場の教育関係者の皆さん、多くの人が大変関心を持っている問題だと感じた。議会の側からこの審議に関わった一人として、そういう責任からも、これからの実施計画、本格実施に向けて、まず子どもの権利条約の見地から子ども達の意見や考え方、そして多くの人たちの意見が反映されて実施されるような、そういうための役割をこれからも果たしていきたいという思いを強くしている。本当にありがとうございました。

委員：一昨年の8月31日から期間的に約一年半、回数にして14回の審議会の審議を通じ、私も大変に勉強になった。ありがとうございました。未来の宝である墨田の子ども達のためを大前提に今回の答申がまとめられたので、答申内容の速やかな実現のための努力を教育長にも是非お願いをしておきたい。特に、小学校・中学校の連携の強化という点は、これからの時代、また墨田区の教育の向上、子ども達の学力向上にも極めて大事なポイントになると思っているので、しっかりと進めてほしい。新たな適正配置の具体的方策の内容は、墨田区の教育行政にとって大変革の内容だと思う。それであればあるほど、保護者の方々、地域の方々、学校関係者、PTA、育成委員会の方々等に、懇切丁寧に説明をして頂いて、理解を得てもらえるような努力を鋭意進めて頂きたい。今後も心からお願いをして御礼の言葉にしたいと思います。ありがとうございました。

委員：私は、昨年の7月に審議会のメンバーに加わらせて頂いた。皆さんよりも前段の審議が不足した部分があったのではないかとと思っている。今日の最終的な感想は、答申の23ページの4行が皆さんの気持ちを1つに集約されているのではないかとと思っている。審議会を通じて委員の皆さんと、墨田の子ども達のより良い教育のあり方について、様々な角度から多くの委員の皆さんと議論できた事を心から感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。なお、会長はじめ委員の皆様の日までのご労苦に敬意を表したいと思います。本当にお疲れ様でした。

委員：この答申を見て、よく出来たのではないかと本当に思っている。適正配置は物理的なところがあるので、それを見ながら大変な事だったと思うが、このように大変結構なものがまとまって良かったと思う。その中で、会長・副会長は、各会、各分野の方々がおいでになっているのでまとめるが大変な事だったと思う。ご労苦に感謝して、感謝の言葉としたい。ありがとうございました。

委員：正・副会長のもと委員の皆さんの協力により答申が出来たことは同慶の限りある。適正配置の大前提として学校の適正規模。適正配置をしても、例えば1学年1学級が6年までずっとだと児童・生徒にとって不幸である。適正な学校の上に学校の適正配置という点で答申が出来たことは同慶の至りである。事務局にお願いしたい事は、拙速もいけない、遅速もいけない、なるだけ早く実施計画案を出してほしい。実施計画が出来ると喧々諤々で、もし自分の学校が統廃合になるとしたら、ものすごい反対運動が起きると思う。その為には時間を置いて良い事はないので、出来るだけ早く実施計画案を作って作業を進めて頂きたいと思う。21世紀を担うのは青少年であり、墨田区の将来を担うのも青少年である。教育というのは1年ごとに進歩していかなければならない。日本の未来のためにも、墨田区の将来のためにも、出来るだけ早く実施計画案を出して、不退転の決意で推し進めて頂くことを希望している。ありがとうございました。

副会長：一年半を超える、そして14回にわたる審議会、本当にありがとうございました。副会長という重職を頂きながら、お役に立てることが出来たのかどうなのか自分自身反省しております。皆さんの話を伺いながら2つのことを感じた。1つは、一人一人の委員の方々が、それぞれの立場を考え

て、審議会の前に必ず勉強されて来て、自分達の立場の所からきちっと発言を頂いて、活発な意見が出てきた。それがまとまらなかったかというところ、墨田区の子も達のより良い教育環境を作るためにどうしたら良いかというところで、まとめていく事が出来た。これはすごいことではないかと思っている。2 つ目は、今回提案されている中で、私自身が関心のある事は学校のブロック制である。8 つのブロックという話が出てきたが、それぞれの分けられた地域の中で、それぞれの歴史や伝統を持っている2 つないし3 つの小学校は、本気になって自分の地域の子もを育てるという形で努力をされる。その時に、この子ども達が通うのはあの中学校なんだという、中学校をイメージしながら育てて頂きたいし、逆に中学校は1 つ1 つの小学校はこんな子どもを育ててきたということ十分に理解した上で、どう伸ばすかということを考え合う。口で言うのは簡単だが、なかなか今までそれが出来なかった。学校を地域に開くとか、家庭と地域と学校の連携という方向性が出てきたところで、一人の子もを同じ地域の小学校・中学校で育てるという思いに立ったときに、今までとはまた違った見方が出来るのではないかと思う。小学校と中学校の先生方が仲良くしなくてはいけないという、当たり前のことだけれど出来ないでいるところを是非進めて頂きたいと思うし、9 年で育った子ども達が自分の土地を、うんと地域を愛する形に育ってくれば一番良いと思っている。もう1 つ、事務局の方々は仕事であるとは言いながら、小委員会において、ある程度まとめの方向が出来ているところを、我々がこうした方が良いのではないかと、どんどん言ってしまった。そうすると、その良い方向へ作り変えようという形で、出来上がったものを全部作り直して頂きながら、次に向けての資料を作って頂いた。本当にそのことに対しては感謝をしたいと思っている。本当にありがとうございました。

会長：最後に私からも一言御礼を申し上げさせて頂きたい。14 回の審議を通じ、特に今日の最後の最後まで、委員の皆様方から墨田の教育に対する熱い思いが本当に伝わってきた。それから、毎回大勢の傍聴の方々が暖かくこの審議を見守って下さっていて、区民の皆様がこの審議会、墨田の教育に期待を持っておられると強く感じた。そのことに関わるこの審議会に、まとめということで関わらせて頂いたことを、まず心から御礼を申し上げたい。委員の皆様方には、毎回積極的に発言を頂き、そしていつも限られた時間の中での審議であったのに、委員の皆様方に助けて頂き、こうしたまとめが出来た。事務局の方々には献身的に支えて頂いて、委員からの様々な要望も資料を出して頂き、方向付けをして頂いたことも大変ありがたかった。御礼を申し上げたい。委員の方々から話があったように、今、まさに国を挙げて教育改革が動いており、この1~2 年を取ってみても、昨年10 月に中教審の義務教育についての基本方針が出され、今月の最初に同じく中教審の教育課程審議会から今後の学習指導要領、学校の基本になることについての経過報告が出された。私どもの審議会も、そうした情報が漏れ伝わってくるが、むしろそれを先取りするような形で、これからの学校教育や墨田の教育はどうあるべきなのか、国や都道府県の改革に先駆けるような内容も盛り込みながら、こうして審議のまとめが出来たことを、皆様方と一緒に大変うれしく思っている。平成16 年8 月31 日付けで我々は適正配置等の基本的な考え方とその具体的な方策に関する諮問を頂いた。その諮問の内容に限らず墨田の教育がどうあるべきなのか、それから今日の挨拶の中にもあったように、実施計画に移った時の思いや、進めていく上での留意すべき事を盛り込む事が出来たこともうれしく思っている。象徴的だったと思うのは、前回は「おわりに」に、速やかにということ了我々の総意として入れたいということが出て、それを盛り込んだ。本日は、「墨田区の教育環境の改善に反映され、子どもたちへのより良い教育環境の提供とともに明るくすまの未来づくりに結びつくことを心より望むものである」と、「心より」という文言を織り込むことが出来て、我々の思い

を込めることが出来たと思っている。墨田区の新たな基本構想の「人が輝く、いきいきすみだ」は、本当に良い文言だと思っているが、私も区民の一人として、これから墨田区がいきいきと進んでいくことと、教育の充実と、その中に今日お渡しをさせて頂いたこの答申が生きて、そして20年後いや50年後に我々も関わって良かったと思える、この審議が生きることを心から申し上げまして、最後に重ねて皆様方への御礼を申し上げて挨拶に代えさせて頂きたいと思います。本当にありがとうございました。